
編集後記

新緑の候、皆様方にはいかがお過ごしでしょうか？

この編集後記を執筆している現在、食の、とりわけ輸入食の安全性に関するニュースが、連日マスコミで報じられています。我々にとって身近な食材の多くが、実は海外で生産されていたのを知り、あらためて日本人の食材の海外依存度が極めて高くなっていることを痛感しています。

さて、今月のニュースレターの資料コーナーでは、世界に貢献する日本の技術の例として我が国が誇る最先端の水処理技術について、日立の富樫様にご紹介いただきました。食材を輸入した場合は、食料生産に自国の水資源は利用しないものの、間接的に生産国の水資源を利用します。この間接的に利用される水をバーチャルウォーターとよび、大量に使用されているようで、ここでも日本の最先端の水処理技術が活躍しているようです。環境元年といわれる本年、

産業応用部門のグローバルな視点での貢献が、地球温暖化対策とともに、水、食、エネルギーをはじめとする多くの分野で一層強く求められているように思えます。

この他、国際会議情報、最近発行の電気学会技術報告書を掲載しています。

また、8月に高知で行われる産業応用部門大会の開催案内と論文募集のご案内を掲載しております。いよいよ論文締め切り予定日が間近となりました。ぜひ積極的なご参加をお願いします。

最後になりましたが、本号作成において、ご多忙中にもかかわらず、各記事をご執筆いただきました皆様、ならびに編集作業をいただきました担当委員の皆様には厚く御礼申し上げます。

エディタ 高橋 龍吉 (日立製作所)